

1. 遺跡名・所在地

湘南新道関連遺跡

六ノ域遺跡（ろくのいき）
平塚市真土

大会原遺跡（おおえばら）
平塚市四之宮

2. 時代 縄文・弥生～古墳・奈良～平安・

中世・近世

3. 調査概要

湘南新道関連遺跡では、神奈川県県土整備部平塚土木事務所が現在計画を推進中の、都市計画道路3・3・6号湘南新道街路整備事業に伴う発掘調査を、平成12年度から継続的に実施しています。今年度は7月より調査を行っています。

事業地内は、四之宮廃寺跡・大会原遺跡・坪ノ内遺跡・六ノ域遺跡という名称で周知された遺跡の範囲にあたり、周辺地域はこれまで度重なる発掘調査が行われた結果、古代相模国の政治的拠点のいわゆる相模国府跡地として有力視されています。

発掘調査ではそれを裏付けるかのように奈良・平安時代を中心とした遺構や遺物が数多く発見されました。

平成16年度の調査は六ノ域遺跡と大会原遺跡、坪ノ内遺跡で実施しました。

このうち坪ノ内遺跡では古墳時代の方形周溝墓5基、古代の庇付（ひさしつき）大型掘立柱建物址1軒・竪穴住居址18軒・溝状遺構11条、中世の土坑墓75基などが発見されました。

庇付大型掘立柱建物址は軸方位をほぼ南北方向にもち、母屋（おもや）は桁（けた）行9間以上、梁（はり）行3間で、東西側に庇が付けられ、建物の東側には柵列状の柱穴が配されていました。（右写真の右手が北になります。）これは全国的に見ても大型の掘立柱建物に属し、国府関連施設の一部と見ることができます。平成15年度に六ノ域遺跡で発見された連房式鍛冶工房（れんぼうしきかじこうぼう）址とあわせて、相模国府の実態を解明する上で、極めて有力な手がかりになると考えられます。

また坪ノ内遺跡では中世の墓域が発見されています。東西 15m、南北 20m の範囲に 75 基の土坑墓が集中して構築されたもので、ほとんどの土坑から人骨が発見されました。そのうちの 1 基からは頭に鉄鍋が被せた人骨が発見され、注目されています。

[12月3日に現地見学会](#)を実施しました。

▶ 見学会の説明資料ダウンロードはこちら

 (Word 形式 3, 135KB)



遺跡の位置



坪ノ内遺跡 奈良時代の底付大型掘立柱建物
址



六ノ城遺跡 連房式鍛冶工房址



坪ノ内遺跡 中世の土坑墓